

挨拶で伝える感謝と誠意

鎌田 裕樹

最近あなたが友達とした会話を思い出してほしい。ほとんどの人は、特段気にすることのないいつも通りの会話をしたことだろう。私も普段はそうだ。好きなスポーツやマンガの話、最近あったことの話、食べたいものや旅行に行きたい場所の話などなど、そういった他愛もない話で盛り上がり、時には冗談を言い合う。人は仲良くなると、これだけで一緒に時間を過ごせるようになるのだ。

しかし一方で、仲の良い間柄だからこそ相手への対応が適当になってしまうこともある。少しくらいなら大丈夫だろう、とついつい強めの冗談を言ってしまったり、言葉遣いに思いやりがなくなってしまうたりしてしまう。これら自体は仲が良くないとできないことで、一概に悪いとは言いきれない。だが、対応に丁寧さが無くなっていくからこそ、時にはしっかりと感謝や誠意を伝えたいと思うのだ。もちろん友達に対し普段からそんな風に振る舞うのは気恥ずかしいし違和感があるので、なかなか難しいかもしれない。しかし、1日の中で必ず訪れる、気持ちを伝えるのに最も適したタイミングがある。それは、別れの挨拶の時である。

「目の前のその人ともう会えなくなる可能性は 0 ではないのだから、わだかまりは残さず、きちんと挨拶をして別れなさい。」

私が幼い頃父に言われた言葉だ。もし別れる際にわだかまりが残ってしまったり、満身に挨拶ができなかったりすると、万一その人と会えなくなってしまうときに、ずっと後悔が残ってしまうのだ。このことを言われて以来私は、別れるときの挨拶は欠かさないように、そしておざなりにならないよう気を付けている。言葉は特に決まっていないが、相手の目を見て、心の中で今日もありがとうと思いながら挨拶する。相手が誰であってもその日の最後に感謝と誠意を込められる大事な機会、それが別れの挨拶なのだ。

あなたにも大切な友達がいるはずだ。手段は挨拶に限らず何でもいい、時には普段の感謝の気持ちを伝えてみるのはどうだろうか。きっと少し不思議がりながらも、嬉しそうに笑ってくれるはずだ。